

目 次

提言の要旨	P 1
はじめに	P 2
第1章 住民自治拡大を目指した取組例	P 3
1 取り組みが進んでいる事例（名張市）	P 3
2 取り組みが進まなかった事例1（A市）	P 4
3 取り組みが進まなかった事例2（B市）	P 4
4 「進んでいる」と「進まなかった」の違い	P 5
第2章 取り組みが進むための条件	P 5
1 施策提案の前提として	P 5
2 名張市とC市の比較	P 6
3 C市におけるコミュニティに関するアンケート結果	P 6
4 アンケート結果の考察	P 8
5 N地区と他地区の相違点	P 9
6 N地区の地域活動が進んでいる理由	P 9
7 N地区における問題点	P 10
第3章 住民自治を育てるための課題	P 11
第4章 新しい住民自治の創り方	P 11
1 “芋づる式”の人おこし ～「充て職・地元名士」頼みからの脱却～	P 12
2 “みらい”を描く ～地域ビジョンの作成～	P 12
3 “だべり場”の確保 ～地域住民による公共施設の運営～	P 13
おわりに	P 14

提言の要旨

地域課題解決のための住民自治の創り方 ～危機感というスパイスがない場合のレシピ～



現在の地域の状況

- ・ 少子高齢社会の到来による地域課題の増
- ・ 自治会加入率の低下に見られるような住民自治機能の弱体化
- ・ 地域活動参加のきっかけがない人もいる

現況

新たな地域活動のための行政から仕掛け

- ・ 円卓会議や新しい地域活動組織の設立
- ・ 交付金の交付

事例：名張市、A市、B市

取り組みが必ず成功するわけではない！

取り組みが「進む」「進まない」の差はどこにあるのか？

＝名張市は合併否決を機に住民と行政が危機感を共有した＝

住民に危機感がないと自治が育たないのか？財政的に恵まれたC市の事例から可能性を探る。

C市N地区の地域活動の状況及び平成19年度国民生活白書によると、取り組み方次第では、地域のつながりや活動の成果による充実感により、地域自治が拡大する可能性を示している。

課題

より多くの住民が参加するにはどうしたらよいか

まちづくりの方向性をどのようにして住民同士で共有するか

住民が気軽に相談、雑談することができる「場」をどのように確保するか

団体間の連携をどのように図るか

地域活動の継続性をどのように確保するか

継続的に地域活動にかかわる人材をどう集めるか

住民の地域活動への関心をどのように高めるか

住民の合意形成を図るか

どのように「人」を掘り起こすか

施策提案

キーワードは、「人」・「ビジョン」・「活動拠点」

“芋づる式”の人おこし

「充て職・地元名士」頼みからの脱却

- ・ キーパーソンの発掘
- ・ 目指す職員像の明確化
- ・ 学ぶ機会を増やす

“みらい”を描く

地域ビジョンの作成

- ・ 円卓会議の設置
- ・ 会議の公開
- ・ 情報発信
- ・ まず活動してみる

“だべり場”の確保

地域住民による公共施設の運営

- ・ 指定管理者制度の活用
- ・ 気軽に立ち寄れる機能
- ・ 地域の事情に合った事業

自治体職員は住民を信じ「地域に寄り添っていく」ものである